

オレンジベスト 見守り 情報

— 上田市少年育成センター 通信 —

上田市教育委員会生涯学習文化財課 上田市 大手 1-11-16 上田市役所南庁舎 電話:23-6375 FAX:23-6368 令和5年11月10日 R5-4号

上田市少年補導委員会 視察研修 報告

オレンジベスト見守り隊

子どもについて学び、社会的視野を広めて資質の向上と活動の充実を図るために、青少年が成長・活躍する学校として「花田養護学校」、蚕糸業における諏訪・上田の歴史と繋がりを学ぶ場として「岡谷蚕糸博物館」、さらに、童心を表現した『童画』鑑賞のため「イルフ童画館」を訪問する諏訪地方への視察研修旅行を実施しました。コロナ禍をはさみ4年ぶりの開催です。

『長野県花田養護学校』

下諏訪町の信濃医療福祉センターに併設する肢体不自由の子どものための、小学部・中学部・高等部が設置された県立の学校です。



子どもたちの未来を見通しながらも、今を楽しく充実したものになるよう願い、ICTを活用しながら生徒たちを中心にした楽しい授業の創造に全力をあげています。

『岡谷蚕糸博物館』(シルクファクトおやか)

蚕種・養蚕・製糸・素材製造が外貨獲得の重要産業として政策に取り込まれた明治初期、岡谷ではフランス式繰糸機に工夫・改良を重ねた諏訪式繰糸機を独自開発しました。この技術が日本全国に普及、同時に岡谷産生糸の多くは輸出され「シルク岡谷」として、わが国の近代化に貢献しました。

こうした歴史を後世に伝えるため、昭和39年、岡谷市が博物館をつくり現在に至ります。

『イルフ童画館』

武井武雄(明治27年~昭和58年 岡谷市出身)の作品を中心に展示しています。氏は「子どもの心にふれる絵」の創造を目指して、『童画』という言葉を生み出し、童画、版画、刊本作品、玩具やトランプのデザインなど様々な芸術分野で作品を創作しました。

当日は、企画展「とびだせ! 長谷川義史展」が開催中でした。氏は平成12年に絵本作家としてデビューし、ユーモアあふれる作品を、150冊以上手がけています。



瀬志本校長先生から、昭和30年の信濃整肢療護院を起源とする歴史、こども一人ひとりを大切に指導・支援されている取組等を紹介していただき、高等部の生徒さんから「一人暮らしの一日」をまとめた動画の発表がありました。

『一本の指が動いたら そこにわたしの生きる道がある』初代諏訪養護学校校長 滝沢石先生の開校の精神を大切に、ハンディキャップがある若者に対して医療・福祉・学校が一体となって将来の社会生活へ向けた教育活動を展開し、生徒の皆さんが笑顔で成長する姿に感銘を受けました。



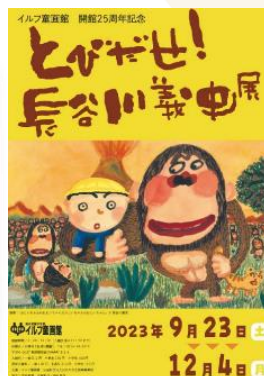
高林館長様に、養蚕から始まる生糸の製造工程、明治から急速に発展した蚕糸業と岡谷・諏訪の歴史、融資面で特別に援助した旧第19銀行(明治10年現上田市で設立)等を説明していただき、先人たちのたゆまぬ努力と熱き思い、上田・丸子地域との関係を学びました。

くしくも諏訪圏工業メッセが初めて岡谷の地で開催される中、糸都岡谷が、ものづくり産業の精神を引き継いで、さらなる発展と新たなシルク文化と継承を目指す姿を知ることができました。



機械遺産 フランス式繰糸機

長谷川氏の作品は、家族や教師、学校や友人、戦争や震災が描かれ、「他者を大切に思う気持ち」「平和な社会への願い」が込められており、平和に暮らす幸せについて考えさせられました。



企画展にあわせ、物資不足の戦中戦後期に武井氏が『平和』をテーマに制作した作品の追展示がありました。両氏に共通する「争いのない世界」へのメッセージが心に突き刺さりしました。

11月は 全国 子ども・若者育成支援強調月間 です

上田駅前啓発活動

… 伸びよう 伸ばそう 青少年 …

大人が変われば
子どもも変わる

(駅前掲示横断幕 メッセージ)



11月1日(水)「青少年は地域社会からはぐくむ」視点から家庭、学校、地域住民、企業、団体及び行政が一体となり青少年の健全育成意識の高揚を図る啓発活動を、強調月間初日に上田駅前で行いました。上田警察署・駅前交番・県上田地域振興局の皆さんの協力をいただき、少年補導委員会と少年育成センター(上田市教育委員会)が企画しました。強調月間にとまなう全国・県下一斉の取り組みです。

大人のみなさんには「大人の責任」を、
青少年には「ルールを守った生活」「電話相談窓口」を「信州あいさつ運動」として啓発しました。
駅前パレオビル2階テラス通路南面には、活動を広く知らせる横断幕を一か月間掲示しています。

青少年補導センター東信4市連絡会・情報交換会 小諸市(ベルウィンこもろ)

9月22日(金) 14:30-17:30

東信4市の担当者26名が会し、小諸市教育委員会 山下千鶴子 教育長をお迎えして、小諸市青少年補導センター主催の標記会議が開催されました。

上田市少年補導委員会からは、正副会長と少年育成センター事務局3名が参加しました。

研修会では、

『知って安心! スマホ・ネットのリスクとその対処法』



子どもメディア信州 メディアインストラクター

町田 祐介 氏 (千曲市教育委員会 指導主事)

の講演がありました。

「千曲市では、学校現場の出欠管理のIT活用で創り出したゆとり(の時間)を、ITリテラシーやモラルの学び(短時間学習)に向けている。」

とのことで、ワークショップでは、短時間ですがクイズ形式のモラル研修を行いました。

- ・ Society5.0 超スマート社会の到来すること。
- ・ 人生100年時代では、全員に情報活用能力が必要となること。
- ・ 現代の児童生徒は、発想の柔軟性・予測力・問題発見力・解決能力を新たに学力として学んでいて、GIGAスクールはその一翼を担っていること。

など、30年前に予想できなかった現在(今日)に私たちは生きていて、次の30年後を考えた教育を進めているとのお話でした。



後半は、子どもたちが陥りやすい具体的な「危険」を紹介していただきました。

- ・ スマホ・ネットの特性を知り「危険」に対して正しく判断できるよう、子どもたちに実感を持たせる。
- ・ 小中学生のうちは、保護者と相談して「危険」にあわないための工夫をする。

ことが大切とお話をいただきました。



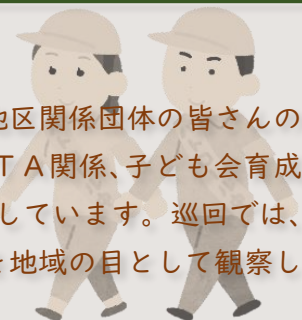
参加者から「千曲市はICT先進市なのか?」との質問に対して「研究授業やICT活用に特化した教材活用を超えて、多くの先生がタブレットや電子黒板を日々の授業で使い、子どもたちが活用している。ドローンを活用したプログラミング学習を全ての学校で実施していることから進んでいると思う。」と回答されていました。

来年度は上田市少年育成センターが主催して会議を開催する予定です。

情報交換会の最後に、宮下幸良 上田市少年補導委員会会長が「有意義な会議、来年度は上田市でお待ちしていますので、是非お越しください。」と挨拶しました。

少年補導委員会 合同巡回活動 展開中

街頭活動により地区の状況を把握している少年補導委員が中心となり、地区関係団体の皆さんの協力をいただき、一緒に街頭活動(合同巡回)を行います。自治会関係、PTA関係、子ども会育成会、青少年育成推進指導員、民生児童委員の皆さん等々、幅広くお声がけをしています。巡回では、「青少年は地域で育てる」という観点で、青少年の状況や社会環境の実情を地域の目として観察して、少年補導委員の活動を知っていただきたいと思ひます。



上半期の活動における 地区の協力者・少年補導委員の声

--- 『連絡票(活動報告)』に寄せていただいた「声」のいくつかをお届けします ---

「地域の子は地域で守る」という視点で巡回活動を行ってみると、いつも見慣れている道や建物が違って見えました。

自治会館裏の広場には子ども5~6人が遊んでいます。自転車が1~2台置いてあるのを見れば、他の自治会からの子どもも一緒なのでしょう。酷暑の数か月は自治会館を開放して預かる案を検討しても良いのかも知れない。「巡回活動」で大切なことは、この活動内容をいかにして自治会や関係組織に落とし込む体系を構築しているかということ気付かされました。

(西部地区 自治会長)

各諸団体が同じような活動をしている面も有るので、もう少し絞った役割にした方が良いのではと思います。(南部地区 自治会長)

活動内容が、防犯指導委員、PTA 等と重複している部分があるように感じる。

人材不足の折、活動内容の再検討と併せて見直しを進めてはどうか。(川西地区 自治会長)

合同巡回に参加したのは初めてだったので、(ペテランの)委員さんから話を聞きながら回ったのでとてもためになった。

アリオのゲームコーナーに子どもが多いのには少し驚いた。しかし、大人が付き添っている子が多かった。アリオに比べると街中には(暑さもあって)子どもがほとんどいなかった。(南部地区 自治会長)

本日、少年補導委員・自治会長・PTA 役員と共に環境チェック活動を行いました。

地域内の実態を把握し、地区内店舗には子どもたちの健全育成への協力をお願いしました。

子どもたちの豊かな成長を支えるために、学校と家庭と地域が一体となったいわゆる横のつながり・連携を今後も大切に取り組んでいきたいと思えます。(川辺泉田地区 PTA 支部長)

今回、合同巡回活動の協力者からは

「初めてでいい経験。」「校舎が新しくなって、昔みたいな中学生を見なくなった。中学校での環境も大事。」「子どもを外で見なくなりスマホの問題を聞くが、中学ではどうなっているのか知りたい。」「いじめの現状はどうか?」

などの話が巡回後のミーティングで有った。

子どもたちを取りまく『環境』が話し合いのキーワードになっていた。

(塩田地域 班長)

少年補導委員3名(の班)で活動しているが、活動計画を班長が主導することになり、どちらかという活動に自主性が無さすぎる。事務局からの活動依頼を班長中心としてしまうと委員会活動が活発にならない。活動は全員で前向きにできないかと思う。

今回巡回した店舗はほとんど協力的では無かったので、もっと「市の力」によって青少年育成対応を行ってほしい。(市街地域 班長)

コラム

無尽蔵

日々過ごしていると、熟語の意味や語源が気になることが有ります。

SDGs には、私たちが **無尽蔵** に消費出来るエネルギーや資源は存在しないことから、一人ひとりが、自らの消費を制限する「消費バウンダリー」という概念があります。私たちは今まで、豊かさのために社会の拡大・成長を目指してきました。成長は経済・雇用の観点ではとても大事ですが、昨今の環境破壊・汚染、気候変動が深刻化する状況は、豊かさの実現の手段であった成長を目的化してしまっていたのでは…と感じます。

さて、無尽蔵とは… ・いくら取ってもなくなる事。また、そのさま。

・広くて、尽きる事のない徳を包含する蔵。

なるほど…私は、人の心の中・考え方に着目しました。

薪を背負い、本(大学)を読みながら歩く姿が時にネットで話題にのぼる **二宮尊徳**(1787-1856)。彼の伝記『報徳記』には次のような記述があります。

「遠きをはかる者は富み、近きをはかる者は貧す。」

江戸末期に関東各地で農村振興に尽くした尊徳は

「遠き未来を考えるものは松や杉の苗を植える。まして、種をまき植え付けをして刈り取ることで、人は豊かになり年々歳々尽きることがなくなる。これを『無尽蔵』という。」と教え説いたそうです。

同じ時代、長岡藩の **小林虎三郎**(1828-1877)は『興学私議』を著し、戊辰戦争の開戦に反対しました。戦に敗れ、焼け野原と化した長岡藩に対し、支藩の三根山藩から百俵の救援米が贈られた際の話です。文武総督に推挙されていた虎三郎は

「百俵の米も、食べたらまらなくなるが、教育にあてれば明日の一万、百万俵となる。

国が興るのも、町が栄えるのも、人にある。その日ぐらしでは、長岡は立ちあがれない。あたらしい日本は生まれぬぞ。」と人々を諭して、米百俵を売り、その売却金で庶民が学べる「国漢学校」を開校する政策を実施したそうです。

目の前の成長も大切ですが、立ち止まって「日本の未来」をはかる視野や冷静さ、思いをはせる心の豊かさ…を『無尽蔵』から学べた気がします。



少年補導委員会の愛称です。(令和3年4月より)



この計画はあくまでも目安です。
実情にあわせて、各班で計画をよろしくお願いします。

令和5年12月		令和6年1月		定期街頭活動 計画		上田市少年補導委員会	
日	曜	12月活動班		日	曜	1月活動班	
1	金	東部A	東部B	1	月		
2	土	神川A	神川B	2	火		
3	日	南部A	南部B	3	水		
4	月			4	木		
5	火	中央A	中央B	5	金		
6	水	塩尻	センター活動(傍陽 本原)	6	土		
7	木	北部A	北部B	7	日	(二十歳を祝う式)	
8	金	西部A	西部B 西部C	8	月		
9	土	城下A	城下B	9	火	東部A	東部B
10	日	神科A	神科B	10	水	神川A	神川B
11	月			11	木	南部A	南部B
12	火	豊殿	東塩田	12	金	中央A	中央B
13	水	中塩田A	中塩田B	13	土	塩尻	
14	木	西塩田	別所温泉	14	日	北部A	北部B
15	金	川辺泉田A	川辺泉田B 川辺泉田C	15	月		
16	土	川西	内村	16	火	西部A	西部B 西部C
17	日	丸子中央A	丸子中央B 【家庭の日】	17	水	城下A	城下B
18	月			18	木	神科A	神科B
19	火	依田	長瀬 塩川	19	金	豊殿	東塩田
20	水	長	傍陽 本原	20	土	中塩田A	中塩田B
21	木	武石		21	日	西塩田	別所温泉 【家庭の日】
22	金			22	月		
23	土			23	火	川辺泉田A	川辺泉田B 川辺泉田C
24	日			24	水	川西	内村
25	月	地域見守り懇談会 各地域で開催中 地域見守り懇談会を実施した際は、 「地域懇談会連絡票」で参加者報告を よろしくお願いします。 (定期街頭活動に替えていただいてかまいません。)		25	木	丸子中央A	丸子中央B
26	火			26	金	依田	長瀬 塩川
27	水			27	土	長	傍陽 本原
28	木			28	日	武石	
29	金			29	月		
30	土			30	火		
31	日			31	水		

お知らせ

今年も残りわずかとなりました

【12月・1月の目標】「非行防止活動の強化と愛の声かけに努めよう」

- 1 年末非行防止活動「愛の一声」でふれ合いを図ろう
- 2 子どもの安全確保・交通事故防止に努めよう
- 3 関係機関や団体、地域との連携を図ろう(警察・学校・地域団体 等)
- 4 年末年始につき、小中学生のゲーム場等の遊び場への出入り、金銭乱費に注意しよう
- 5 未成年者の喫煙・たむろ・深夜の外出・集団暴走行為に注意して声をかけよう

※ 諸活動の報告書(連絡票)は 活動後1週間を目途に御提出ください。

上田市少年補導委員会 サイト <https://www.city.ueda.nagano.jp/soshiki/shogaku/36041.html>

補導委員会の活動は、
「参加・協力される方の意向を尊重し、
無理のない範囲で」計画をお願いします。

